

## 美しい豊かなまちづくり

審議役 近藤 豊太郎

大阪湾岸線の工事もいよいよ大詰めを迎え、関西国際新空港への重要なアクセスとして順調な進捗を見せている。

一方、平成5年度からは第11次道路整備五箇年計画がスタートする予定であるが、その5年間に当公団の高速道路においても湾岸線の供用をはじめとし、北神戸線や、第2環状線を形成する淀川左岸線、大阪泉北線、大和川線の整備促進を図るとともに京都市内を含む京阪間の高速道路網の整備着手などが期待されている。

最近では「ゆとりのある社会」を実現するために、公共事業としての道路のあり方が問われはじめている。当公団の高速道路もその一環として位置づけられていることは言うまでもないが、今までの、ともすれば機能優先になりがちな道路から、地域と一体となった、市民がそこで遊び、楽しみ、そして誇りに思えるような余裕を持った多機能を有する道路へと、道路整備そのものが「美しい豊かなまちづくり」へと変わってきている。これからは道路ができたおかげで緑も増え、周辺環境がよくなったといえる道路整備を行う時代になったと思われる。そのためには、今までの土木技術だけではなく、まちの景観に融和した建築分野や芸術分野など他分野のノウハウをいかに土木分野へ転化し応用していくかという課題が今まで以上に重要になるところである。

このように新たな課題の解決においては、今日の公団を支えてきた技術力の結集が重要であり、本技報に見られるように技術者がたゆまざる技術向上に邁進することこそ、明日の公団を支える力になることと信じております。